

42.195



Vol.15

すがすがしい季節となりました。日本には、蒸し暑くうだるような暑い夏があるからこそ、この季節の素晴らしさを感じることができるのです。本当にありがたい環境です。

今回は、先月号で表現しました、「問題が薄れてきている」ということについて書かせていただくと思います。



なんとなく毎日を送っていると、自分は問題のないと、悩みがないとを願ってしまいます。そして、時に大きな問題が来るたびに「もうこれ以上のことはないだろう。もうこんな問題は、こりこりだ」と思ってしまいます。問題をなくすこと、悩みがないことを期待し、いい結果だけを望んでしまうのです。しかし、時にそれは、「楽しかった!」という事も、人や本やさまざまな事物などから教えていたたいたる時もあります。

たった一度の人生を、たった一度のこの命を、何か何でも価値のあるものにしてほしい! 口先ばかりで、楽しんで、いい思いをしたいだけなのではないか!! 沸々とした感情が奥底から湧き出てくる時があります。「問題のない現実はない」問題のない現実には確かに有りません。身近な問題から、社会・国際問題まで、どこまで、自分の問題として、感じる事が出来るか。だから問題がないとを願うのではなく、問題が有る事を認め、その問題の意味と価値を深く深く掘り下げる事が、大事だということに、おもい、より、向かい合うべきなのです。楽しかっただけの自分の時は、本当に意気地な人間です。

以前、茅村思風先生にこんな事を教えていただきました。「問題は、自分を成長発展させる為に起すものである。問題をかかえたりハッピーなんて有り得ない。問題を抱えながら、ハッピーを感じるんだ」として、「決断する」とは、多くの可能性の中から、一つの未来を選択することである。だから、決断とは、他の選択と捨てることだ。しかし、往々にして、「決」は出来ても「断」が出来ない。「退路を断つ」とは、このことである。確かに自分に置き換えると、何かを決めたものの、次々として出てくる障害に、「あ、あの方が良かったんじゃないか、もっと違う方法があったんじゃないか」などと思ってしまうことが有ります。これでは、成長がないということかもしれません。「選択肢が問題なのではなく、どの選択肢を選んで、問題は、必ず発生する」ということなのです。だから、選択肢に問題が有るのではなくて、その選択肢で発生する問題に対していかなる取り組みが出来るといふかが問題なのだ。自分が選んだ道に命をかけた。良いとも、そうでない事も、全ての現象には、意味と価値が有る。……

自分が成長する、会社が発展するということは、「問題を乗り越え続ける」ということなのだということも伝えられたので、今はもちろん、まだまだ、常に問題の中に飛び込み続けていく自分ではなけいなりません。そうはいけい、社員スタッフさん達に幸せにならなくても、絶対に出果、ありません。同時にそんなでは、御客様様に幸せにならいたたく仕事を提供出来るものでないという事です。今月号は、「まあ、この問題!」ということに、Xさせていたたきます。ありがとうございます。



平成二十一年 九月吉日 多田 良雄